

# 福井の幕末明治 歴史秘話

## <第23号>

平成28年12月19日発行

### 明治国家のプランナー、渡辺洪基 ～外交、政治、教育で手腕を発揮～

今回は、幕末の福井藩から東京府知事、次いで帝国大学（東京大学）初代総長に就任したことで知られる渡辺洪基（こうき）を取り上げます。

渡辺洪基は、福井藩の医師、渡辺静庵（せいあん）の長男に生まれました。福井で漢学を学び、江戸に出て佐倉の蘭学者佐藤舜海（しゅんかい）に師事した後、慶応元年（1865）から、福沢諭吉の塾（後の慶應義塾大学）で洋学を学びます（当時19歳）。

福沢諭吉との間でこんな逸話が残っています。諭吉の塾で正月、故郷に帰らない塾生が集まっていた時、雑煮を食べたいと誰かが言い出し、洪基が餅を調達することになりました。幕末の混乱期で、餅の入手も困難でしたが、洪基は「俺に策がある。」と短刀を取り出し、部屋を出ていきました。皆が、強盗でもするのではと心配する中、洪基は笑いながら「先生の家床の間の鏡餅の後ろを切り取ってきた。前部さえあれば足りる。」と話したと言います。諭吉の妻が気付き、大騒ぎとなりました。諭吉は洪基をかわいがっており、「洪基の仕業だろう。」と笑っていたということです。



渡辺洪基  
(外交官時代)

その後、渡辺洪基は、医を捨て、政治の道歩むことを決意します。「優れた医者は国の有様を診察し（分析し）、その行く末を治していく（正していく）ものだ。」とその気持ちを語ったと言われています。明治4（1871）年には、岩倉遣外使節団に随行。帰国後、外務省に勤務し、政治の歩みを進め始めます。

明治18（1885）年、洪基は、東京府知事に就任（当時39歳）。就任直後に東京を襲った大洪水に対し、直ちに被災地に赴き、流失・破損した橋の架橋・修理を早急に進めるなど復興に力を注ぎました。現地を実際に自分の目で確認し、対策を講じるやり方は、被災地住民に大きな安心を与えたと言います。

また、東京にも外国の都市のようなマークが必要だと提案。明治22（1889）年に洪基（当時、東京市参事会員）が提案し決定されたマークは、今も東京都の紋章となっています。



東京都紋章

明治19（1886）年には、帝国大学の初代総長に就任（当時40歳）。伊藤博文首相など政府首脳は、初代総長は空理空論を唱える学者ではなく、行政手腕と実行力を備えた者がふさわしいと考え、洪基の名を挙げたと言います。洪基は、就任後、貧しい学生への学費支援を企業等に要請。就職を約束しての学費貸与という提案に、企業等から卒業生の数を超える申込みがあったと言います。また、実学を重視し、廃校やむ無しとされた東京職工学校（後の東京工業大学）の帝大附属校化に取り組みました。

その後、洪基は、貴族院議員などを歴任。多彩な分野で能力を発揮しました。日本を世界水準に押し上げたその歩みは、『明治国家のプランナー』と評されています。<参考資料>渡邊洪基（ミネルヴァ日本評伝選）他

#### ～幕末ふくい歴史紀行～ [武生公会堂記念館]

・昭和4年に建設された武生公会堂記念館。国の登録有形文化財に登録されています。1階では、越前市の歴史やゆかりの人物等を紹介。2階は、特別展のスペースとなっています。エントランスには、渡辺洪基の功績を讃えて、胸像が設置されています。

【住所】越前市蓬菜町8-8（JR武生駅から徒歩5分）



武生公会堂記念館

#### ★お知らせ 歴史講演会「河合敦の幕末明治の先人たちに学ぶ生き方」を開催！

・平成29年1月15日（日）、福井商工会議所地下1階コンベンションホールで開催（13:30～15:00）

・「世界一受けたい授業」などテレビ番組でおなじみの河合敦先生が登場！教科書には書かれていない、楽しくて意外な幕末明治の歴史をお楽しみください。【申込：県ブランド営業課（0776-20-0762）】

【住所】福井市西木田2-8-1 JR福井駅西口バスターミナル5番「商工会議所行き」バス乗車、福井商工会議所で下車

（発行者）福井県 （問合せ先）福井県観光営業部ブランド営業課 萩原、前田 ☎ 0776-20-0762